



日本語と日本人

ピーター・フランク

僕は今までに20カ国語近くをかじったことがあるけれど、正直なところ一番難しいと感じたのが日本語だった。なんでそれでも日本語を学び続けたかという、日本人がとても優しく親切だからだ。

世界中の様々な国を訪れてきたが、日本と日本人が大変気に入って日本で暮らし始めてもう10年になる。

外国人が日本語を少しでも話すと、日本人は必ず「日本語が上手ですね」と誉めてくれる。それは日本人が日本語を学ぶことの難しさを理解しているからだろう。多くの外国語はどれもたいてい難しいものだが、その国の人が難しさを意識していないことが多い。だから上手に話しても当然という顔をされる。その理由は表記にある。外国語は文字が種類なので話していることを基本的に書けるが、日本語の場合はひらがな、カタカナに加えて難しい漢字がたくさんある。最も基本的な1200字の漢字を小学校の6年間で習うのだが、頭の柔らかい子供が6年もかけて学ぶことを外国人が身に付けるのは本当に大変である。そこで僕は自分を勇気づけるために、最初に日本人でもなかなか書けないような漢字をいくつか覚えて満足感を得た。

また日本語には敬語がある点がとても難しい。相手への敬意を表すために尊敬語・謙譲語・丁寧語があり、例えば食べるに関しては相手に「召し上がってください」と言われたら、「いただきます」と答えなければならない。けれどもこれらをすべて最初から正確に覚えるのは無理なので、間違いを恐れずにどんどん話したほうがよい。逆に間違ふことによって愛嬌が出て、相手に親しみをもってもらえるから。

他にも日本人と知り合ったときに親しくなるコツを紹介しよう。日本人はお互いをファーストネームで呼ばないことが多いが、できるだけ最初から日本人をファーストネームで呼ぶといい。これは外国人の特権であり、日本人は嫌がらずにむしろ喜ぶことのほうが多く、簡単に友達になれる。また日本人は親しい間柄でも、会ったときに握手をしたり抱き合ったりキスしたりすることがないが、それを知った上で気にせずそうするとよい。外国人だから許してもらえるし、楽しむ日本人も意外と多い。

日本の文化、日本人を理解して、外国にいてもとにかく楽しく日本語を学んでほしい。

(数学者、大道芸人)

表紙エッセイ

日本語と日本人

ピーター・フランクル (数学者、大道芸人)

Japanese and Japanese People

Peter Frankl (Mathematician, Performer)

読者から

From Our Readers

教育実践レポート⑨日本研究

ダーラム大学東洋学部日本語学科における
日本研究について

ジーナ・バーンス

(英国・ダーラム大学東洋学部教授)

Japanese Language Teaching Around the World

⑨Japanese Studies

Japanese Studies in Department of
East Asian Studies, University of Durham

Gina L. Barnes (Professor, Department of East Asian Studies,
University of Durham)

海外日本語センターニューズレター紹介

Introducing

News letter issued by the Japan Foundation Japanese Language
Center Around the World

初・中級 写真で見る日本人の生活

家事 毎日の家の仕事

Beginning and intermediate Japanese Life As Seen in Photographs

House Keeping

日本語を研究する

第9回 異文化接触場面のコミュニケーション
研究と日本語教育

コミュニケーション・ストラテジー研究の概観

尾崎明人 (名古屋大学教授)

Research on the Japanese Language

Studies on Communication in Intercultural Contact
Situations and Japanese Language Teaching

Brief Overview of Studies on Communication Strategies

Akito Ozaki (Profassor of Japanese Education Center for
International Students, Nagoya University)

初級 授業のヒント

句型練習のアイデア

Beginning Hints For Teaching the Japanese-Language

Idea for Practicing the Sentence Pattern

本ばこ (新刊教材・図書紹介)

国際交流基金開発教材紹介

『写真パネルバンク』全5シリーズ完成

Book Shelf : Introduction of New Titles

Teaching Material Developed by the Japan Foundation

Complication of the "Photo Panel Bank" (Vol. 1~5)

海外日本語教育Q&A

Overseas Japanese-Language Education Q&A

ニュース・編集部から

Miscellaneous News・From the Editors

マークは、読者が教えている生徒のレベルを示します。

mark indicates the level of students whom readers are teaching

読者から

私は阜新県モンゴル高校の日本語の教師です。私の学校は日本語と英語を外国語として勉強しています。日本語の教師は7人で、学生は3学年計14クラスで700人います。学校では今年から新しく出版された日本語の教材を使い始めました。今までの教材とちがって、ヒアリングや会話などもそろっているよい教材です。先生にも学生にもずいぶん人気があります。この教材を使い始めたことにより、教授法も、昔の文法と翻訳を主とした教え方から変えていかなければならなくなりました。

それで私はずっと大事にしていた大学の先生からいただいた『日本語教育通信』1993年第14号、16号、17号を取り出していっしょに読んでみました。この中で「Q&Aネットワーク」(*)と「授業のヒント」がたいへん参考になりました。そして、授業中そのとおりにやってみると、学生

の学習意欲が増しました。本当にありがとうございました。これからも『日本語教育通信』がきっと役に立っていくのでしょう。(中国阜新県 モンゴル高校日本語教師 包華)

「Q&Aネットワーク」は「海外日本語Q&A」にタイトル名を変更しています。

●お手紙は編集部で要約・編集して掲載しました。

表紙エッセイプロフィール

ピーター・フランクル (Peter Frankl)

4歳で2桁の掛け算をマスターし、その後国際数学オリンピックで金メダルを獲得。その一方でポリシヨイサーカス学校で大道芸を修得し、日本では「大道芸学者」として知られる。また、日本語を含め11カ国語を話す。初来日の'82年以来、熱烈な親日家で日本名は「富蘭平太」。

ダーラム大学東洋学部日本語学科 における日本研究について

英国 **ダーラム大学東洋学部教授**
ジーナ・バーンズ

このコーナーでは、特色ある日本語教育を実践している機関の教師の方々に、現場のコースデザインやコース運営の状況について、紹介していただきます。

1 日本語学科設立の背景

ダーラムでの日本語教育は、1981年、拡張プログラムの一つとして始まった。

最初のコースは、学部 (School of Oriental Studies) の中国語専攻の学生を対象にした2年間のオプションという形で設けられた。その後、日本語と日本史が最終卒業単位の50%までを占めることができる「日本語を副専攻とする中国語専攻コース」の確立を望む声が学生から出されるようになり、これが、2年間の日本語のオプションコースに付け加えられるようになった。また、日本語のオプションコースは大学の他学科の学生に対しても開かれるようになった。1989年、学部名がDepartment of East Asian Studies (以下DEAS) に変更され、大学院レベルの日本語コースにつながるようになった。

更なるコースの拡張は、イングランド北東部の日本企業の投資を受けて進められた。日本企業の援助により、1992年から日本語を主専攻とするコース (full honours degree programme) が、日本語専攻学生に対して開かれるようになった。

こうしたコースが充実していくのと同時に、ダーラム大学で日本語教育が始まるきっかけとなった、中国語専攻学生に対する副専攻としての日本語コースは、段階的に廃止されてきている。日本語に関心のある学生は、他の学生同様、2年間の日本語入門コースを受講することができるためである。他に追加されたコースには、大学院生のためのコース (postgraduate diploma programme) がある。これには初級・中級が用意されている。

1991年、ダーラム大学は大学のコース組織を、伝統的な英国式プログラムから単位制に変更した。したがって日本語コースも、一年間で六つの単位が取れる、完全なモジュール制コースに変更された。単位には1単位、2単位、3単位の3種類があるが、全て一年間、つまり三つの学期に分けられた22週で終わることになっている。

2 学部生向けのコース

(1) 学位

DEASは日本語のコースに二つのタイプを設けている。一つは、日本語を主専攻とする単一学位である。もう一つは、現代日本語と以下に示した他の科目の学位を合わせて取るものである。DEASで日本語で学位を取るには、現代日本語の集中プログラムが必修となっている。コースを良い成績で修了した学生には、BAの学位が授与される。1996年に最初の学位が授与された。(表1)

表1 1998年日本語コース卒業生

コース名	1996	1997	1998
日本語 (主専攻)			3(注)
日本語 and 経営学	8	12	6
日本語 with 政治学			
日本語 with 言語学			
日本語 with 史学			
日本語 with 第2言語 (フランス語・ドイツ語・スペイン語・中国語・韓国語)			2
日本語 with 哲学			
日本語 with 地理学			

(注)1998年に初めて日本語主専攻学生に、ファースト・クラスの単位が授与された。

学位を取る過程においては、予備プログラム (the Preliminary Honours programme) における、第1学年での学習が含まれている。この一年のコースは合格が不合格かによって評価され、それぞれの科目で40%に達している学生だけが第2学年に進級できる。第2学年の一年間は、日本の大学との交換留学によって日本で語学研修を受ける。

最終プログラムは2年間で、その間に12単位 (一年で6単位) を取得することになっている。学位のクラスは科目につけられた評価に基づいて決められ、最終学年で得た得点にはより高い比重がかけられる。3、4年次の得点を合わせた最終的な平均得点が、40%以上の学生にはHonours Degree (70%以上の学生はファースト・クラス、50 - 69%がセカンド・クラス、40 - 49%がサード・クラス) が与えられ、35 - 39%の学生にはPass Degree、そして34%以下の学生に学位は授与されない。

表2 必修日本語科目

学年	科目	単位数	時間/週
第1学年(注)	Introduction to Written Japanese 3時間Grammar 2時間Writing	2単位	5
	Introduction to Spoken Japanese 6時間drill 2時間language lab	2単位	8
第2学年	(日本での語学研修)		
第3学年	Written Competence in Japanese	1単位	3
	Spoken Competence in Japanese	1単位	3
第4学年	Advanced Japanese	1単位	4

(注)1998年の10月から第1学年に、すでに日本語学習経験のある学生を受け入れるクラス(accelerated)が加わる。A-レベルやGCSEの日本語合格者、または日本滞りの経験があったり、日系人である志願者が年々増えてきている。こうした学生は、日本語に関する知識や経験の無い学生とは区別して教える。第1学年に入門でないコースを設けているのは、今のところイギリスでダーラム大学だけである。

日本語科には、全ての学年において、必修の日本語の授業がある。(表2)

必修の日本語科目に加えて、日本語主専攻の学生は2年間、古典を受講しなければならない。また、日本語と経営学を専攻する学生は2年間、ビジネス日本語を取らなければならない。その他の学生のほとんどは、現代日本語の翻訳を中心としたテキストクラスを取っている。このクラスには1)現代日本歴史、2)現代日本文学、3)日本文化と日本社会があり、学生は自分の専攻と興味によって選択している。学部では今、日本語科の学生全てに必要な、テキストを使った科目作りの実現に向けて検討中である。

日本語学科には、必修であり、核となる言語の授業に加え、オプションで多くの言語以外の講義が設けられている。学生はこうした講義、特に自分の学位に関係するもの(例えば歴史)を受講することが望ましい。他の科目も合わせて専攻している学生は、その学部内の単位(1年次の入門に始まり、3、4年次の上級に続く一連の授業)を取らなければならない。

(2) 入学許可の手順

現在のところ、国内の各大学の定員数は英国政府によって定められており、その定員数を更に各大学内で、学部別に振り分けている。ダーラム大学DEASでは、学部別の定員は44名であるが、これは中国語、日本語、両学科にとって十分な定員である。ただし、海外およびEUのfull fee payingの入学希望者はこの定員枠には含まれない。学生はUCASを通じて入学願書を送ることになっているが、ダーラム大学の場合は学部とコレッジ(寮)であると同時に学問の場としての意味を持つ施設(両方)に提出しなければならない。学生の学問的能力の可否は、DEASでは第一には学部で審査をされる。ここでは、最低B、B、C(3つのAレベルテストの成績が、B、B、C以上でなければならない)でAレベルもしくはそれ

れと同程度の結果を収めていることが基準となっている。また、何らかの語学あるいは数学の学問的能力や学習経験があることが望ましい。これに加えて、DEASでは一貫して入学希望の学生と個人面接を行ってきた。これは学生の能力やモチベーションをより正確に把握するためである。

DEASの学科別学生数は、フレキシブルなもので、その年度によって異なる。常に優秀な学生を優先するため、学部の定員44名をバランスよく振り分けられないことがある。

(3) 第1学年

前に述べたように、1年次のコースには、13の単位が含まれている。このコースデザインは『Japanese: The Spoken Language』(E. H. Jordan, 1987)を基礎としたものであったが、1998年10月から、教科書を『Yookoso: An Invitation to Contemporary Japanese』(Y. Tohsaku, McGraw Hill, 1994)に変更する予定である。『Yookoso』は、機能や場面を重視した教科書であり、現在DEASの教員全員がこのようなアプローチによる教授法が望ましいと考えているためである。

1年次のコース目標は、基礎的な会話力をつけて、2年次における日本の大学生活への準備を万全のものにすることである。加えて、最低漢字500字の読み書きができることである。この二つの目標に沿って学期中の授業がデザインされる。また、その後の夏休みの間に追加の漢字200字を読めるようにし、日本へ出発する8月の下旬から9月頃までには漢字の知識を広めておくことが望ましい。1998年10月からは、1年次で覚えるべき漢字は日本語能力検定試験3級程度のものの中から選ぶことを基準とし、残りは日本漢字能力試験からのものを加えていく予定である。学生向けには『Basic Kanji Book:基本漢字500』(加納千恵子他、凡人社、1991)を紹介しておく。

1年次のコースは、日本人教師が行うドリルと、英語を母語とする教師による文法の説明からなる。日本人教師は、4技能(話す、読む、書く)全てにおいて学習項目の導入、発展を受け持っている。いままで、DEASのルールとして学生は授業中だけでなく学内、学外問わずに日本人教師とは日本語でコミュニケーションを図らなければならないとしてきた。これは海外において日本語環境を作る試みであるが、概ね成功しているとさえいう。日本人教師との交流を通して、学年の終わりには皆教師の言うことを理解し、自分の言いたいことが伝えられるようになる。

1年次で取るべき単位は6単位である。日本語の授業

は4単位であるが、残りの2単位は日本語以外の教科から取ることになっている。これらの科目は普通、週に1回の講義である。DEASでは、2科目設けており、一つは『East Asian Traditions』、もう一つは『Modern East Asia』である。日本学などの専攻の学生はこの両方を取るが、大抵の学生はどちらか一方を取り、残った1単位を各専攻(史学、哲学、経営学など)にあわせた概論の教科に当てる。『East Asian Traditions』と『Modern East Asia』は東アジアにおける日本をテーマにしているため、日本語学科の学生が日本について深く掘り下げて学ぶのは3年次からである。DEASでは日本語学科も中国学科も東洋学の一つとして設けられており、学部全体も東アジア全域を視野に入れて学ぶことをねらいとしているため、できるだけ中国学科と日本語学科の学生をまとめて扱うようにしている。

(4) 第2学年

日本での語学研修は、学科生の必修科目である。中国語学科の場合、学生全員が海外の語学研修を一つの大学(北京人民大学)で行うのに対して、日本語学科はいくつかの大学に分かれて行っている。授業内容は各研修機関に委ねられており、ダーラムに帰ってくる前に研修先で学んだことを完全に身に付けることを目標としている。このように、研修先の大学に委託している部分が大いため、中国語学科のように学生全員が英国帰国時に同じ内容の授業で、同じレベルのことを学んできたというわけには行かない。ただし、1)教育漢字1006字の読み書きが完全にできること、2)卒業論文構想(英文)を書き上げておくこと、の2点を共通の課題として課している。漢字学習の補助教材としては『実用日本語漢字1000』(新宿日本語学校編、1991)を学生向けに紹介している。

(5) 第3学年

学生が日本から帰国すると、3年次に進級する。1998年度からは、3年次の学年の始めのオリエンテーションで、プレイスメンテストを実施することになった。これは学生を能力別にクラス分けするからではなく、帰国した学生の日本語力を正確に把握するために必要であると判断したからである。3年次では、日本語のクラスは週に6時間である。それに加えて、学生はCALL(Computer Assisted Language Learning)プログラムを利用できる。CALLを大いに利用し、文法の知識を強化するのがねらいである。DEASでは、できるだけクラスの能力別編成はしないことを信念としているが、来年度は今までと違って始めて日本で三つ以上の異なる教育機関で研修し

た学生たちを迎えるため、能力別編成が必要になるかもしれない。なお、ここでCALLプログラムについて説明しておく。CALLは、DEASシニア・インストラクター、クロス尚美が開発にあっている。また、このプログラムは、ダーラム大学Teaching & Learning Initiatives Advisory Groupからの援助を受けている。CALLは学生の自習用に開発されたもので、学生は個人の実力にあわせて学習を進められる。内容は、中級レベルの日本語文法の基礎固めと日本で学んだことの復習が中心である。

教科書についてであるが、1996年度では、『コンテンツポラリー-日本語中級』(奥村訓代・松本節子編、桜楓社、1989)今年度では、『文化中級日本語』(文化外国語専門学校編、凡人社、1991)を使用した。来年度も引き続き『文化中級日本語』を使用する予定である。1年次よりも日本語の授業時間数が減ってしまうため、3年次では日本語の会話力を身につけるチャンスがないとの不満がどうしても出てしまう。しかしほかの専門科目が多く入ってくるため、時間数が減ることは避けられない。そこで、学外に会話力向上の場を求めることになる。幸い、語学研修先の教育機関からの交換留学生がちょうど良い話し相手になっているようである。漢字については、学年の終わりまでに、常用漢字をすべて読めるようになることが目標である。更に、それぞれの専攻(ビジネス日本語、古典、現代日本語)における専門用語の語彙力を広げていかなければならない。また、中には12月の日本語能力検定試験2級を受けて、合格する者もいる。

(6) 第4学年

4年次で必修の日本語の授業は週4時間である。また、卒業論文は日本語の文献、資料等を取り入れることを義務づけている。図書館の利用法、インタビューの仕方、アンケートの作り方や分析の仕方の学習をした上で、卒業論文の作業の大半は3年次から4年次にかけての夏休み中になされる。会話の授業ではプレゼンテーション、インタビュー、ディベート、説明の力をつけることを目標としている。読解・作文に関してはより正確な読み、翻訳に頼らない作文力を目標とし、これは特に時間を設けずに、ビジネス日本語、古典、現代日本語等の専門的な日本語の授業でまかなわれている。今年度までは、4年次で教科書を使用することがなかったが、来年度から教科書の使用を検討中である。

4年次の終わりまでに、漢字については常用漢字すべて



日本語コース立案者のひとり、Dr. McClure(左、現在は米国へ帰国)と日本現代史学者のDr. Weste(右)



自習用に開発されたCALLプログラム
(操作しているのはクロス尚美氏)

の読み書きができることが
目標である。学生向けには
『The Complete Guide to

Everyday Kanji』(Y. S. Habein & G. B. Mathias、講談社インターナショナル、1991)を紹介している。加えて、学生の日本語力については日本語能力検定試験2級に良い得点で合格する、または1級程度の能力に達することが総合的な目標である。日本語能力検定試験は年に一回、12月に実施されるため、学生には第1学期終了後に各自受験するよう、促している。

日本語能力検定試験は、国際交流基金と、AIEJを通じて行われるものであるが、その他にも、学生の技能向上を量る目安になるものが二つある。一つはPeter Parkerのビジネス日本語スピーチ・コンテストであり、もう一つは、Ivan Morris賞(作文)である。これらは全国的な規模で、イギリスの同じような教育機関からの学生たちと競うことができるため、全国でのダーラム大学生のレベルを知る目安にもなる。今年度は、3年次の学生がPeter Parkerのビジネス日本語スピーチ・コンテストで3位に入賞した。また、同コンテストの最終選考では3分の1をダーラムの学生が占めた。ほかには、96年2月の長野オリンピックでイギリスのボブスレーチームの通訳を務める(3年生)など、学生は積極的に学外で自分たちの可能性に挑戦している。

(7) 筑波大学とのつながり

過去7年間、DEASは日本の筑波大学第2学群日本語・日本文化類と密接なつながりを持ってきた。同大学の石田敏子教授の協力を受け、毎年同学類卒業生が日本語教育の経験を積むために「Practice Teacher」として派遣されてくる。96年度からは三年間の予定でSt. Mary's Collegeを通じて帝京大学(沖永荘一総長)からの援助を受けている。この「Practice Teacher」は、St. Mary's Collegeで日本語趣味講座を受け持つと同時にDEASでも1年生、3年生、また場合によっては古典の授業も担当している。

もう一つ、筑波と協力しているプログラムにEメール・プロジェクトがある。これは、DEASの3年生が作文をEメールで筑波大学の学生に送り、筑波大学の学生がそれを添削して送り返すというものである。このプロジェクトによって、ダーラムの学生はワープロで日本語を打つ練習ができ、また学習の動機を高めることができると同時に、筑波の日本語教育専攻の学生は良い経験になる。双方の学生にとって意味のあるプロジェクトであると言える。

3 大学院向けのコース

ダーラム大学では大学院レベルの学位も取得できる。

以下にその学位を挙げる。

(1. ~5. まだがDEAS所属、6. と7. は考古学所属)

1. Diploma in Japanese
2. Diploma in Advanced Japanese
3. MA in Modern East Asian Studies
4. MA in East Asian Research
5. MA in East Asian Art & Archaeology
6. MA in Artifacts & Museum Studies
7. MA in Prehistory (East Asia)

1. Diploma in Japaneseと、2. Diploma in Advanced Japaneseのみは、語学に関するものである。そこで、ここで詳細を述べておく。これらディプロマ・コースは入学資格としてすでに何らかの学士号を有していることを課している。ゆえに、扱いは大学院生と同じであるが、コース内容はほとんど学部生と同じ(但し卒論はない)であるため、MAコースとは言わずにディプロマ・コースとしている。

1. Diploma in Japaneseから直接、2. Diploma in Advanced Japaneseに進むことはできない。1. は学部の1年生と同等のレベルであり、2. は3年生と同等のレベルである。学部の2年生は日本へ行っており留守であるが、その2年次のレベルの相当するコースと言うものが用意されていないからである。

しかし、1. か2. どちらかのコースからMAコースへ進むことは可能である。特に、ディプロマ・コースと3. MA in Modern East Asian Studiesとの組み合わせは大変効率よく学べる。ディプロマで語学を集中的に学び、その後のMAコースで、東洋学を学んだり、研究のためのトレーニングを積んだりできるからである。

4 今後の展望

本学部の目下の目標は、筑波大学との協力により、教師養成組織を作ることによって、非常勤教師の雇用制度を安定させることである。できれば学部学生にこの講座を開き、そうすることで学生は自分の学位のために、有効な教育訓練を受けることができる。DEASでは、外国語としての日本語教育のMAを創設したいと考えており、できれば日本語教育におけるSecondary Schoolとの連携を図りたい。こうした計画は、学生に完璧な日本語のトレーニングを提供し、卒業生が次の段階で日本語を自己学習できるようにするための、言語教育の強化を図るものである。

海外日本語センター

かい がい に ほん ご

ニュースレター紹介

しょう かい

国際交流基金の海外日本語センターではユニークなニュースレターを発行しています。今回はこれらニュースレターの概要を紹介します。

バンコック日本語センター

(タイ バンコック日本語センター発行)



使用言語：日本語版とタイ語版を別々に作成

ページ数：8ページ

発行月：2、7、11月の年3回発行

発行部数：1,000部

配布対象：日本語教育を行っているタイ国内の教育機関に無料で配布しています。

読者に対する「お知らせ」として当センターの事業内容ははじめとして、国際交流基金の公募プログラムを紹介するとともに、これら公募プログラムの研修体験者の体験談も掲載しています。そのほか「学習やネットワーク情報」としてセンター講師が選んだ教材の内容紹介や使い方、毎日の授業に使えるような「教え方のヒント」や「新刊案内」「人物往来」等も掲載しています。

問い合わせ先：Japan Foundation Bangkok Language Center
10F, Sermit Tower 159 Sukhumvit 21 Bangkok 10110 Thailand
TEL . + 66 2 261 7500 ~ 4
FAX . + 66 2 261 7505
URL . <http://www.jfbkk.or.th>

ブンガラヤ

(マレーシア クアラルンプール日本語センター発行)



使用言語：日本語

ページ数：8ページ

発行月：3、6、9、12月の年4回発行

発行部数：1,000部

配布対象：マレーシアにおけるマレーシア人・日本人の日本語教師および日本語教育関係者、日本国内の日本語学科のある大学を対象に無料で配布しています。

マレーシアの日本語教育関係者によるエッセイや、この国の日本語教育事情を調査し記録する特集を毎回掲載しています。日本語の先生方に興味をもって読んでもらえるよう記事の執筆をお願いして、読者参加型の紙面作りに努めています。特に、先生方の手による教材紹介の「この一冊・この本」が好評です。また、情報を視覚的にも伝えられるように写真を多用したカラー印刷のニュースレターです。

問い合わせ先：Japan Foundation Kuala Lumpur Language Centre
Letter Box 3, 5th Floor Wisma Nusantara, Jalan Punchak,
Off Jalan P. Ramlee, 50250 Kuala Lumpur, Malaysia
TEL . + 60 3 230 6631 FAX . + 60 3 201 3090
E-mail : jlc@jfk.org.my
URL . <http://www.jfkl.org.my>

Dear Sensei

(オーストラリア シドニー日本語センター発行)



使用言語：日本語・英語

ページ数：8ページ(A4 タブロイド版・2色刷)

発行月：2、5、8、11月の年4回発行

発行部数：3,000部

配布対象：オーストラリアの初等・中等教育機関の日本語教師
 を対象に無料で配布していますが、高等教育機関にも希望に
 応じて無料で配布しています。当センターで実施する、毎年
 の「School Update」に回答していただくことが条件となっ
 ています。もし、サンプルとして「Dear Sensei」をご覧に
 なりたい方は、ご連絡ください。

オーストラリアの初等・中等教育に携わる日本語教師を対象
 に、Cover Top News、Sensei's Pages、Library、Briefly
 とそれぞれのセクションの中で、日本語教師に役立つ様々な
 情報を盛り込んで提供しています。特に人気の Sensei's
 Pages は、毎回、「体と健康」、「家と近所」など各州シラ
 バスにあるトピックの中から一つテーマを選び、「文法とア
 クティビティーアイデア」、「読み物」、「日本語アラカルト」、
 「クロスワード等懸賞付きゲーム」で構成され、すぐに教室
 で使えるよう、また、視覚的にも楽しめるようイラストにも
 工夫を凝らしています。

連絡先：“Dear Sensei” Editorial Section
 The Japan Foundation Sydney Language Centre
 Level 12, 201 Miller Street, North Sydney NSW 2060, Australia
 TEL . + 61 2 9957 5322 FAX . + 61 2 9957 6789
 E-mail : masydian@dot.net.au
 URL. なし

Aquarela

(ブラジル サンパウロ日本語センター発行)



Table with 4 columns: 日本文学賞 (Japanese Literature Award), 賞金 (Prize Money), 応募資格 (Eligibility), and 応募方法 (Application Method). The table lists various literary awards and their details.

使用言語：日本語・ポルトガル語

ページ数：8ページ

発行月：6、9、12、3月の年4回発行

発行部数：2,000部

配布対象：ブラジルおよび南米諸国の文化関係機関、日本研
 究 日本語教育機関には希望があれば無料で配布します。

日本語教育の教材紹介や日本語を教えている機関紹介のほ
 か、文化センターの催し物についての案内も載せています。
 写真や、センターの職員が描いたイラストを使って親しみや
 すい紙面作りを心掛けています。

問い合わせ先：Fundção Japão
 Av. Paulista 37 20 andar São Paulo Brasil CEP. 01311-902
 FAX . + 55 11 284 4424 E-mail : jpn@fjso.org.br
 URL. http : //www.fjso.org.br

BREEZE

(米国 ロス・アンジェルス日本語センター発行)



使用言語：英語（固有名詞等のみに必要に応じ日本語）

ページ数：12～16ページ

発行月：年4回発行

発行部数：7,000～8,000部

配布対象：米国における日本語教育関係者

米国における日本語教育の俯瞰図ないしは基本的な動向を関係者、日本語教師、各レベルの教育機関、外国語教育専門機関、助成財団、政府・公共機関に伝えるためのメディアと位置づけています。全国で共通する主要な問題点の指摘、問題解決のための協力の方法、学習者・教育機関・教材の数量的統計、などについて取り上げます。その他、ロス・アンジェルス事務所の文化・芸術プログラムなどに関する情報源にもなっています。

問い合わせ先：The Japan Foundation & Language Center in Los Angeles
2425 Olympic Blvd., Suite 650E Santa Monica, CA 90404, U.S.A.
TEL . + 1 310 449 0027 , 1 888 667 0880
FAX . + 1 310 449 1127 E-mail : jflalc@jflalc.org
URL : http : //www.jflalc.org

まど

(英国 ロンドン日本語センター発行)



使用言語：英語（一部日本語訳あり）

ページ数：8ページ

発行月：4、9、1月の年3回発行

発行部数：1,000部

配布対象：英国内の日本語教育機関、日本語教師の方に無料で配布します。

ロンドン日本語センターが開設されてほぼ1年経った今年の4月に創刊しました。日本語センター事業のご案内のほか新しい日本語教材の紹介や英国内の日本語教育に関する最新の情報を提供しています。

また、主として中学・高校生を教えている日本語の先生向けに、授業のアイデアを紹介するページも設けています。読者とのコミュニケーションを大切にしながら、楽しく、読みやすく、役に立つ紙面作りを心掛けています。

連絡先：The Japan Foundation London Language Centre
27 Knightsbridge, London SW1X 7QT, UK
FAX . +44 171 838 9966
URL : http : //www.nihongocentre.org.uk



ジャカルタ日本語センターニュース

(インドネシア ジャカルタ日本語センター発行)

現在、ニュースレターの発行をお休みしています。今年あるいは来年から発行を再開する予定です。発行が再開されましたら、『日本語教育通信』でお知らせいたします。



写真で見る
日本人の生活

「家事 毎日の家の仕事」

このコーナーでは、国際交流基金日本語国際センターが発行している、日本語教育用「写真パネルバンク」を使って、初等中等教育機関で日本語を教える先生方が、どのように日本人の生活を紹介できるかを提案していきます。また、文型、単語、漢字は、初級の学習者でも読めるようにやさしいものを使っています。今回は「日常生活シリーズ」を使って、日本の家庭で行われている家事とその役割分担について取り上げます。



せんたく

ほとんどの家庭が、週に何回か、せんたく機を使ってせんたくします。せんたくした物はベランダや庭にほします。せんたくは、妻がよくする仕事です。



すべて妻	61%
ほぼ妻	15%
それぞれ	15%
妻と母	4%
ほぼ夫	1%
すべて夫	1%
親子	1%
夫の母	1%
無記入	1%

そうじ

毎日のそうじは、妻がすることが多いです。部屋やろうかのそうじをする時は、そうじ機をつかいます。

日本人は、おふろの好きな人が多いので、おふろのそうじもたいへんです。おふろは、夫がそうじする家

庭も多いです。

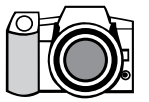
部屋

すべて妻	43%
それぞれ	25%
ほぼ妻	19%
ほぼ夫	5%
妻と母	4%
すべて夫	3%
無記入	1%

おふろ

すべて妻	29%
すべて夫	23%
ほぼ妻	18%
それぞれ	13%
ほぼ夫	8%
子	3%
夫の母	2%
親子	2%
妻と母	1%
無記入	1%





料理

りょうり

料理は家事の中で、一番時間がかかります。食事のあとかたづけもたいへんな仕事です。料理は妻が作ることが多いですが、あとかたづけは、こどもや夫が手伝うこともあります。

料理

すべて妻	47%
ほぼ妻	29%
それぞれ	15%
夫の母	3%
妻と母	3%
ほぼ夫	1%
親子	1%
無記入	1%

あとかたづけ

すべて妻	37%
ほぼ妻	24%
それぞれ	19%
ほぼ夫	5%
すべて夫	5%
妻と母	4%
親子	3%
夫の母	1%
親子	1%
無記入	1%

ゴミだし

ゴミ出しは、夫がよくする家事の一つです。日本では、ゴミの種類で、出す曜日がちがいます。ゴミをあつめる車が、決められた曜日に決められたところにゴミを取りにきます。

すべて妻	32%
すべて夫	25%
それぞれ	22%
ほぼ妻	14%
子	2%
親子	2%
ほぼ夫	1%
妻と母	1%
無記入	1%



ゴミの分け方



日本では専業主婦が多いので、家事は妻がすることが多いです。最近は働く主婦が増えたことにより、家事をする夫が増えています。

参考文献：『笑って暮らせる共働き～ゆとりが持てる！ のびのび結婚生活術～』アズ・コミュニケーションズ（1996）

異文化接触場面の コミュニケーション研究と日本語教育

—— コミュニケーション・ストラテジー研究の概観 ——

名古屋大学教授 尾崎 明人

このコーナーでは、これから研究を目指す海外の日本語の先生方のために、日本語学・日本語教育の研究について情報をおとどけています。今回のテーマはコミュニケーション・ストラテジーの研究と日本語教育研究です。

1. はじめに

言語と文化を異にする個人と個人がコミュニケーションを行う場面を異文化接触場面とよびます。近年、日本語を媒介言語とする異文化接触場面は国内外で急速に増えており、これからもますます増えていくと思われます。

日本人との異文化接触場面で円滑なコミュニケーションができる能力を育てることが日本語教育の目的の一つです。したがって、日本語による異文化コミュニケーションの過程で、どのような問題が、いかなる原因で起き、その問題がどのように処理されているかを明らかにする研究は日本語教育の内容と方法を考える上でとても重要です。このような観点から、この小論では、異文化接触場面のコミュニケーション・ストラテジー研究について紹介します。

2. 異文化接触場面のコミュニケーション・ストラテジー (CS)

日本語学習者と日本語母語話者が話をするとき、さまざまなコミュニケーション上の問題が起こります。次のやり取りは日本人主婦 (J) とオーストラリア人日本語学習者 (A) の会話の一部ですが、ここでもコミュニケーション問題が起きています。

1. A : あー いえ いえのー 病気 になりますか。
2. J : いえのー . . .
3. A : 病気。
4. J : . . . いえの病気って、わかりません。

5. A : (小声で) Homesickness?

6. J : ああ、ホームシック (笑いながら)。ホームシックになりますか。

7. A : はい はい (笑いながら)。

8. J : いいえ。なりません。主人と子どもがいますから。

9. A : はい。

(「ー」は音の引き延ばし、「. . .」は目立ったポーズを示す。)

Aはhomesicknessを日本語でどう言えばいいかが分かりません。そこでhomeを「家」に、sicknessを「病気」にそれぞれ直訳して、何とか相手の日本人に伝えようとしています。相手の日本人には上手く伝わりません。Aは仕方なくhomesicknessと英語を使っています。Aは発話生成の面で問題を抱えており、日本語への逐語訳と英語の使用という手段によって問題を解決しようとしていることが分かります。一方、Jは「いえのー. . .」と言い淀んでいます。相手の質問が理解できないという問題が起きていることを間接的に示そうとしています。Aからは何の手助けも出てこなかったため、結局Jは「分からない」と言って、理解面の問題を表に出しています。

上の例では単語が分からないという日本語知識の欠如が問題の原因でした。しかし、コミュニケーション問題はこのような言語知識の問題に限られるわけではありません。相手との心的、社会的距離をどのように調整するか、自分をどのような人間として相手にみせるか、相手が聞きたくないと分かっていることをどのように切り出すか、などなど様々な問題があります。

このようなコミュニケーション問題に対処しながら、

一方ではより効果的なコミュニケーションを行うために、私たちはさまざまな方策を用いています。このような問題処理の方策、効果的なコミュニケーションのための方策を外国語教育、第二言語習得の研究分野ではコミュニケーション・ストラテジー（CS）とよんでいます。

3. コミュニケーション・ストラテジー（CS）の研究

CSの研究は1970年代に始まり、1980年代に盛んになりました。CS研究の初期の段階では、言語知識の不足を補うために第二言語学習者が用いるストラテジーに関心が寄せられ、CSをどのように定義するか、どのように分類するかがまず議論の中心になりました。

CSの定義には、大きく見ると、心理言語学的な定義と社会言語学的な定義の二つがあります。心理言語学的な定義とは次のようなものです。何かを表現しようとして必要な単語や文法が分からない、思い出せないという「問題」に直面したとき、私たちは頭の中でいろいろなことをやります。その頭の中でやっていること（起きていること）がCSだという考え方です。問題処理の認知的なプロセスをCSと考えるわけです。一方、社会言語学的な立場では、会話参加者が、言語知識や背景知識のギャップを埋めながら、コミュニケーションを成立させるために用いる方略をCSと捉えます。CSは参加者のやり取り、すなわち談話の中に現れるものということになります。

この立場の違いは、CSの研究方法の違いにもなっています。心理言語学的な立場に立つ研究では、実験的な手法をよく用います。被験者が一語では表現できないような物や図形を見せて、人為的にコミュニケーション問題を作り出し、それをどのように説明するか調べるという研究方法です。また、使用言語の違いがCSの種類や使用頻度に影響を及ぼすかどうかを明らかにするために、被験者に母語と第二言語で同じ課題をやらせるという実験方法も用いられます。一方、社会言語学的な立場に立つ研究では、実際の会話にどのようなコミュニケーション問題が現れ、それが会話の展開の中でどのように処理されるかに着目します。また、非母語話者の用いるCSと母語話者のCSを比較し、母語話者から見て不自然あるいは不適切と判断されるCSを調べる研究もあります。

学習者が用いるCSの研究には多くの興味ある研究課題が考えられます。①コミュニケーション上効果的なCS

は何か、②学習レベルによって使用するCSは変わるか、③言語使用の目的や場面によって使用するCSは変わるか、④学習環境によって習得されるCSは違うか、⑤学習者の性格はCSと関係があるか、⑥学習者の母語はCSと関係があるか、⑦CSは第二言語習得を促すものか、⑧CSを外国語の授業で教える必要があるか、などです。

4. まとめ

これまでのCS研究は心理言語学的な観点からのものが多かったと思われます。コミュニケーション能力を高めるための日本語教育にとっては、異文化接触場面のコミュニケーション過程、すなわち接触談話を社会言語学的な視点から深く掘り下げる研究がもっと必要です。このような研究は、日本語教育に直接役立つだけでなく、接触場面の一方向の当事者である日本語母語話者にとっても有益な情報を提供するものになるはずで、異文化接触場面でよりよいコミュニケーションを成立させるためには、母語話者もまた効果的なCSを学ばなければならないからです。

日本語教師にとって大がかりな研究を続けることは決して容易ではありませんが、学習者を異文化接触場面に参加させ、それを録音、録画し、学習者と一緒に異文化コミュニケーションの過程を観察することによって教師もまた多くのことが学べると思います。

参考文献

初期の研究成果をまとめた論集としてFaerch and Kasper (1983)は必読の文献です。また、Kasper and Kellerman (1998)では、社会言語学的な視点からの論文が一つのセクションにまとめられており、CS研究の現状を知るのに役立ちます。

- Neustupny, J.V. 1995. 『新しい日本語教育のために』大修館書店
- Faerch, C. and C. Kasper (eds)(1983) Strategies in Interlanguage Communication. Longman.
- Kasper, G. and E. Kellerman (eds)(1998) Communication Strategies. Longman.
- Ozaki, A. (1989) Requests for Clarification in Conversation between Japanese and Non-Japanese. Pacific Linguistics Series B-No.102. The Australian National University.

授業のヒント

じゅ ぎょう

今回は、初級の授業で大切な文型(パターン)の練習のアイデアを紹介します。

テーマ 文型練習のアイデア

ぶん けい れん しゅう

目的・教えること もくてき おし
文型(パターン)練習 ぶんけい れんしゅう (1)「~で~を~ます」、(2)「~ました(か)」
学習者のタイプ がくしゅうしゃ
初級前半 じょきゅうぜんはん
クラス的人数 にんずう
何人でも なんにん
準備するもの じゆんび
特になし とく

文型(パターン)練習の必要性

ぶん けい れん しゅう ひつ じょう せい

授業で新しい文型を教える場合、普通、図1のような流れで行います。

学習者にまず新しい文型の意味や働き(機能)を導入し、理解させます。その後、基本練習をします。基本練習の目的は、学習項目の文型の発音とその形に慣れることです。基本練習の時にパターン練習には、形に注意して行うものと、意味にも気をつけながら、少し会話に近い形で練習するものがあります。

その練習が終わったら、タスク練習やロールプレイなどの応用練習をしてだんだん自然なコミュニケーションに近づけていきます。この段階では、習った文型を使って学習者になるべく自分自身のことが言えるようにします。

しかし、単純な基本練習がきちんとできていないと、学習者は実際の会話に近い活動(応用練習)がうまくできなくなってしまうと、教師がせっかくなかなか活動準備していても、学習者は「日本語は難しい」とか「この活動はおもしろくない」といった感想を持つかもしれません。そうならないためにも、基本練習としての文型(パターン)練習は大切です。そこで今回は次のような特徴の練習を紹介します。

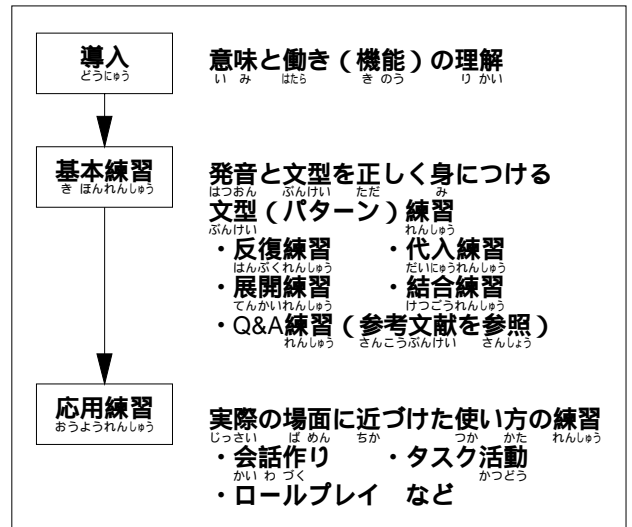


図1

- ・準備の時間がかからない。
- ・教具などがあまり必要ではない。
- ・狭い場所(教室)でもできる。
- ・ドリルに慣れていない学習者でもすぐのできる。
- ・文型の意味を考えながら練習できる。

今回紹介する練習はパターン練習のうち「代入練習」と「Q&A練習」の形を使ったものです。

1. どこで何をしますか

文型: ~で~を~ます [代入練習]

①教師が黒板に練習する文型を使った例文の一つ書き、例のように番号をつける。

例) 私は食堂でコーラを飲みます。
1 2 3

②教師は学習者を1人ずつ指名していく。指名された学習者は1から順にその部分だけを他のことばに変えて、文を作る。どうしてもできない時は2か所変えてもよい。

例) 教師: 私は食堂でコーラを飲みます。

A: 私は公園でコーラを飲みます。

B: 私は公園でジュースを飲みます。

C: 私は公園でジュースを買います。

ときどき教師が指示をして、1~3の順序を変えたり、使う名詞や動詞を指定してもよい。

「私は」を「~さんは」として、学習者が次に文を作



る学習者を指名してもよい。

- 例) 教師: アリさんは食堂でコーラを飲みます。
 アリ: キムさんは公園でコーラを飲みます。
 キム: ヤンさんは公園でジュースを飲みます。

【教師の役割】

- ・学習者が作った文の間違いをなおす。特別な場面では言えることもあるので、学習者が何を考えたか聞くことも必要。
- ・この文型で使えない動詞は何か確認する。
 「(場所)で」が使えない動詞には「行きます、来ます、帰ります、あります、います」などがある。
- ・作った学習者だけでなく、他の学習者にもいっしょに意味や問題点を考えるように言う。

【バリエーション】

他の文型(「教室に(形容詞)+(名詞)があります/います」など)を使っても練習できる。「教室」に1、形容詞に2、名詞に3をつけて、順に変えていく。

想像力を使って、おもしろい文を作るように学習者をばげます。

2. 何をしましたか

文型: ~ました(か)[Q&A練習]

- ①教師は、学習者に昨日またはこの前の日曜日にしたことを5つノートに書かせる。

例) 朝、コーヒーを飲みました。

部屋をそうじしました。
 映画のビデオを見ました。

.....etc.

- ②教師は、何人かの学習者に作った文を1つずつ言わせて、文法的な間違いがないかチェックする。

- ③学習者同士でペアを作り、自分が作った文を相手に質問する。

例) ~さんは日曜日の朝、コーヒーを飲みましたか。
 はい、飲みました。
 ~さんは日曜日に部屋をそうじしましたか。
 いいえ、しませんでした。

.....etc.

- ④ペアの学習者は、相手の答えが「はい」だったら「いいえ」だったら×を書く。

- ⑤ペアでの練習が終わったら、教師は結果を報告させる。

例1) 私は日曜日の朝、コーヒーを飲みました。~さんもコーヒーを飲みました。

例2) 私は日曜日に部屋をそうじしました。~さんは部屋をそうじしませんでした。

【教師の役割】

- ・学習者同士のペアワークがうまくいくように、反復練習などで十分口慣らしをさせる。
- ・②では、形の正しさだけでなく、スムーズに言えるかどうかを確認する。

【バリエーション】

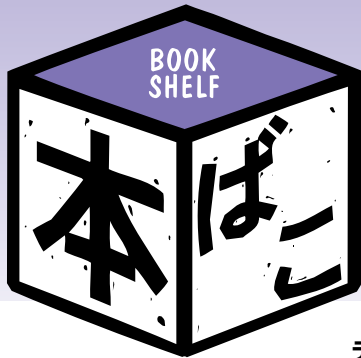
自由に文を作らせることがむずかしいときは、教師が動詞や文のリストを用意して、その中から選ばせてもいい。

参考文献

- 国際交流基金日本語国際センター(1992)『外国人教師のための日本語教授法』
 横溝紳一郎(1997)『ドリルの鉄人』(アルク)

文型(パターン)練習は、実際の会話に近い活動の前にするものです。基本練習を大切にして楽しい授業をしてください。

このコーナーの担当者: 北村武士、八田直美(日本語国際センター専任講師)



「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本語教材や参考書をを中心に紹介していきます。紙面の制約上、一回に多くの本を紹介できませんが、「海外の先生にとって使いやすい教材」「授業や研究の役に立つ本」、また、「知っているると便利な図書・資料」などを取り上げます。

データ凡例 ①著書 ②出版社 ③刊行年月 ④ISBN ⑤ページ数 ⑥定価 ⑦その他

いろいろな利用者の使いやすさを考えた初級教科書

『みんなの日本語 初級 I』



データ

①スリーエーネットワーク②スリーエーネットワーク (〒101 0064 東京都千代田区猿樂町2 6 3 松栄ビル / TEL .03 3292 5751 FAX .03 3292 6195) ③1998年3月16日④4 88319 102 8⑤244ページ⑥2 625円⑦翻訳・文法解説英語版 2,100円 カセットテープ(4巻) 6,300円

教材の対象者と構成

『みんなの日本語 初級 I』は、初めて日本語を学ぶ一般の学習者を対象にした教科書です。この教材には、「本冊」「翻訳・文法解説 英語版」とカセットテープがあります。この教材は、文型を積み上げる方法を通して、学習者が短期間に生活上の基本的な会話ができるようになることを考えて構成されています。「本冊」の各課の構成は、「文型」「例文」「会話」「練習」「問題」です。「練習」は文型の定着と会話の練習のために、「問



P 65

題」は各課の復習、まとめに使用します。文型の数は約75、語彙数は約1,060です。「翻訳・文法解説」の各課には、新出語・文型・会話・表現などの翻訳・解説の他に、参考語彙や日本事情の紹介が含まれています。現在は、英語版ですが、今後他の言語の版も出版される予定です。

さまざまな利用者のために

この教材は技術研修生のために開発された『新日本語の基礎 I』(以下『新基礎』)の姉妹編にあたり、『新基礎』の特徴とも言える学習項目と練習方法のわかりやすさを残し、また、各課の構成、提出文型も同じです。大きな違いは、技術研修生特有の生活場面、語彙がなくなり、日本人の社会生活を反映させた場面がふえています。『新基礎』では、研修センターを中心に、デパート、郵便局、公園、カメラ屋、レストラン、工場、スキー場、日本人宅、という場面が取り上げられていますが、『みんなの日本語 初級 I』では、中心人物の会社、マンションを中心に、隣人宅、デパート、スーパー、郵便局、レストラン、タクシー、銀行、病院、パーティー、不動産屋と、場面に広がりがあります。これまで『新基礎』を使って一般の学習者に教える場合、教師が語彙や場面の調整をしなければなりませんでした。『みんなの日本語 初級 I』ではその負担が軽くなりました。また、一般の学習者にとっても話題や場面が広がったため、興

味を持って学習を続けることができるようになります。その他、練習でのイラストの活用が多く、練習がわかりやすいという特徴もあります。また、「翻訳・文法解説」に新たに加わった参考語彙と日本事情に関する情報は、語彙をテーマごとにまとめて覚え、話題を広げたい人に役立つでしょう。

豊富な補助教材

この教材は新出の文型の提出課が『新基礎』と同じであるため、次の補助教材がそのまま使えます。『新絵教材』『携帯用新絵教材』(『日本語教育通信27号』参照)、『クラス活動集101』、『新日本語の基礎 I 復習ビデオ』(『日本語教育通信第29号』参照)



P 56



P 41



ビデオを見ながら学ぶ中級レベルのビジネス日本語

『ビジネス日本語会話 課長』

データ

①財世界経済情報サービス(WEIS)

②発売: ジャパンタイムズ、発行:

(財世界経済情報サービス(WEIS))

(〒105 6190 東京都港区浜松町2 4

1世界貿易センタービル/TEL 03

3435 5731 FAX 03 3435 5738) ③

1997年5月27分 6 300円

物語は、佐藤さん一家が4年ぶりに海外赴任から日本に帰国したところから始まります。帰国早々、佐藤さんは課長として本社に着任し、新しいプロジェクトを担当します。会議に出張、残業と、忙しい毎日が始まります。

場面で見えるビジネス日本語

この教材は、佐藤さんの毎日の生活を、ビジネス場面を中心に54の場面に分け、それぞれの場面で用いられる日本語とその日本語使用の背景にある社会的・文化的な事情を学ぶことを目標に作られたビデオ教材です。ビデオは全1巻(27分)で、テキストには付録として音声CDも付いています。

レベルは、基本的な日本語を300~500時間程度学習した中級レベルの学習者を対象にしています。テキストの各課は、

①『場面(モデル会話)』②『解説』③『ク

イズ』④『ティップス』と『コーヒー・ブレイク』(日本のビジネス事情説明)で構成されています。

ビデオを見ながら考える

待遇表現

『場面』のモデル会話の一つ一つの発話には、①男性が使う表現②女性が使う表現③目上の人に使う尊敬表現④目上の人には使えない表現⑤性別や上下関係に関係なくどんな場合でも使える表現という5つの区分が示されています。相手や状況に応じて適切に使い分けをしなくてはならない日本語の待遇表現の用法を確認するのに役に立ちます。

また『解説』には、会話の中で使われている一つの語彙や表現の意味や用法、さらにはそれを理解するために必要な社会・文化的な事情の説明が英文で書かれています。特に、ビジネス場面におけるコミュニケーションの中で、対人関係に強い影響を与える終助詞(「よ」「ね」「か」など)の意味や用法について、詳しい説明があるのが大きな特徴です。

ビデオを見ながら考える

「日本人」

おじぎや頷きなどの非言語行動、呼びかけや「そうか」「なるほど」などの応

答表現、「あっ、そうそう」「よし」などの感嘆表現は、文字教材だけで理解するのはとても難しいものです。この教材では、目と耳でそれらの表現がどのような場面で、どのように使われるのかを確認することができます。文字に頼らずに、画面を見ながら、繰り返し聞いて慣れることを目標に練習すると、効果があがるでしょう。正しく内容が聞き取れているかを確かめるためには、『クイズ』が役に立ちます。

また、『ティップス』や『コーヒー・ブレイク』の欄では、日本でどのようにビジネス関係を築き、維持していけばいいか、日本人はビジネスを進めていく上で、どのような考え方をするのかなどが、英語で分かりやすく解説されています。現代日本事情の一面を考える一資料として、活用することもできます。



たまの休日は、家族サービス。日本のビジネスマンに休みはなし(場面番号32)



会議、会議、また会議。ビジネスマンは忙しい(場面番号18~22)



仕事も一段落。みんなでパッと打ち上げた(場面番号44)

pp.16~19は、以下の日本語国際センター専任講師が図書を選び、分担して紹介文を執筆しました。

木谷直之、木山登茂子、高偉建、坪山由美子、藤長かおる、向井園子

きたになおゆき きやまと も こ こういけん つばやま ゆ み こ ふじなが むかい そのこ

文章・談話の研究の参考になる一冊

『文章・談話のしくみ』

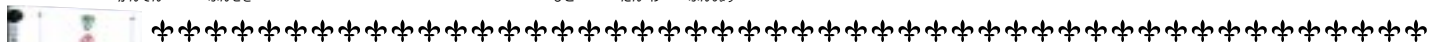
データ

■熊谷智子、佐久間まゆみ、杉戸清樹、野村眞木夫、半澤幹一、ポリリーザト、ラウスキー、おふう (〒101 0064 東京都千代田区猿樂町2 2 6/TEL .03 3295 8771 FAX .03 3295 8778) 1997年11月25日 44 273 02942 15 223ページ 2,100円

本書は、1990年に出版された「ケーススタディ 日本語の文章・談話」の入門書として編集され、日本語の文章・談話についてより丁寧な解説がされています。ここでは、複数の文が集まってできている文章・談話をコミュニケーションの手段として位置づけています。そして、文章・談話というまとまりにはどのようなきまりがあり、どのようなしくみになっているのかをことばのはたらきという観点から分析しています。

全体は3章からなります。第1章では、コミュニケーションにおける文章・談話の位置づけとそれがどのようにして成り立つかを述べています。第2章では、文章・談話を構成する10の言語現象「くりかえす」「はぶく」「さししめす」「ひく」「むすびつける」「きりかえる」「とりあげる」「とりまとめる」「ととのえる」「かかわりあう」をとりあげています。例えば、「きりかえる」という項目では、「文章・談話のある局面で、それまでの内容からはなれて新たな内容に移ること」とその概念を説明し、文章例・談話例をもとにどのような表現がその役割をになっているのか具体的に分析し、その形態的特徴と文章・談話上の働きを明らかにしています。第3章では、文章・談話を構成する個々の要素がどのように関連し合っ、一つの談話・文章をまとまりのあるものと

にしているのかを述べています。ある特定の概念を示す用語には、わかりやすい説明をつけたり、全体を通して可能な限りやさしい日本語を使うなど、読みやすく書かれています。本書は、日本語の文章・談話についての知識を深めたり、研究したりするときの参考になるでしょう。



中・上級者向けの文型辞典

『教師と学習者のための日本語文型辞典』

データ

■砂川有里子、駒田聡、下田美津子、鈴木睦、筒井佐代、蓮沼昭子、ベケシュ、アンドレイ、森本順子 (〒112 0002 東京都文京区小石川3 16 5/TEL .03 5684 3389 FAX .03 5684 4762) 1998年2月 2日 44 87424 154 9 292ページ 6 3 465円

ことばを使いこなすには、その意味、機能、形式とともに、場面や文脈に応じた使い方を知ることが必要です。そのすべてに答えてくれるのがこの辞典です。

中・上級表現文型のほとんどを収録

この辞典には、日本語能力試験1・2級レベルの文法的機能語(「～あげく」「～かねる」等)を含む3,000項目の表現が集められていますから、中級レベル

以上で問題となるもののほとんどがのっているといつてもよいでしょう。また、「鈴木さんだっけ」の「っけ」のような話しことば特有の表現も入っていますから、会話表現に興味のある人にとっても便利です。

わかりやすい用例と解説

各項目の内容は、①形式(文型の構造、接続形式) ②例文(ルビつき) ③解説から構成されていて、例文数も多く、使い方がわかりやすくなっています。また、解説では、必要に応じて誤用例や類義表現との使い分けについても触れていますから、間違いやすい点がよくわかります。

充実した索引

「50音順索引」「末尾語逆引き索引」に加えて「意味・機能別項目索引」もあり、調べたい文型を見つけるのに大変便利です。

【っけ】

- [N/Na だった)っけ] [A かつたっけ] [V たっけ] [...んだった)っけ] (1) あの人、鈴木さんだ(った)っけ? (2) 君、これ嫌いだ(った)っけ? (3) この前の日曜日、寒かつたっけ? (4) もう手紙出したっけ? (5) 明日田中さんも来んだっけ? (6) しまった! 今日は宿題を出する日じゃなかったっけ。 はっきり記憶していないことを確認するのに使う。(6)のように自分に確認するような気分だけで独り言を言うときにも使う。ただた話しことば。丁寧体は「N/Na でしたっけ」「V ましたっけ」「.. んででしたっけ」となるが、「A かつたですっけ」という形はない。話しことば。



ジャンル別でつけやすいカタカナ用語事典 『最新カタカナ用語「読む見る」事典』

データ

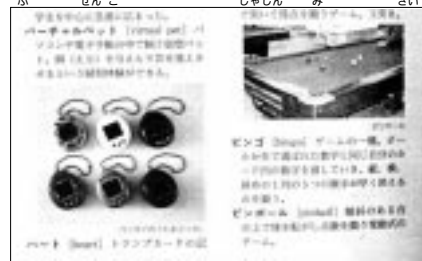
1講談社 **2講談社** (〒112 8001 東京都文京区音羽2 12 21 / TEL .03 5395 3566 FAX .03 3944 4441) **3**
 1998年3月2日 **4** 06 269001 **25**
 765ページ **5** 625円

本書は、日常生活に必要な基本用語に加え、新聞やテレビなどで目にする専門語や流行語を選び、収録したカタカナ語事典です。全体で約11,000語が収められています。

関連した用語がまとめて読めるように、全体は、食、衣、住、健康、社会、政治、経済、文化、音楽、自然、科学、技術、交通、スポーツ、人間という15のジャンルに分けて編集されています。見出し語の理解を助けるために、解説のほかに写真やイラストが多く掲載されています。また、ジャンル別の索引のほかに、五十

音順でもさがしたいことばを見つけることができるようになっています。最後に欧文の略語も集められています。

「ジャンル別」というこの事典の最大の特徴を活かして何ができるでしょうか。たとえば「プリント倶楽部」ということばを調べるとしましょう。五十音順で調べても出てきますし、「娯楽」というジャンルで調べても出てきます。ですから、「プリント倶楽部」ということばを正確に覚えていなくても、そのことばの属するジャンルさえ知っていれば、見つけることができます。また、「プリント倶楽部」の前後のことばや写真を見ると、最



近はやっている「たまごっち」や、昔はやった「インベーダーゲーム」なども載っています。ですから、一つのことばにとどまらず、それと関連のあることばも知りたいという人にも便利です。

なお、見出し語には原語のつづりもついでおり、また、日本で作られたことばには「和製語」という注記があるので、もとのことばとの関連が分かります。

本書にはルビがついていないので、漢字力の弱い学習者には不向きです。

P 207



日本の最新事情がわかる 『時事ニュースワード1998 - 1999』

データ

1時事通信社 **2時事通信社** (〒100 0012 東京都千代田区日比谷公園1 3 / TEL .03 3591 1111 FAX .03 3592 1086) **3**1998年2月5日 **4** 7887 9803 **5**351ページ **6**1,155円

本書は、1997年から1998年にかけての一年間に日本と世界で起こった重大な出来事や社会の動きを表す用語を集めて解説したもので、170の話題と約400項目の基本用語とが収められています。

全体は、「国際情勢」、「政治・地方自治」、「経済・労働」、「情報・通信」、「科学」、「地球・環境」、「社会」、「暮らし・医療」、「教育」、「スポーツ」、「文化」の11の分野に分けられています。分野ごとの構成は、初めに、一年間の大流れを概説し、次に、ニュースとなった主要な話題を取りあげ、その内容と主な論点

を解説しています。そのあとに、個々の基本用語の解説が続きます。また、本の最後には、話題になった人物の紹介も載っています。

例えば、「経済・労働」の分野では、「景気低迷」、「田安誘う」、「日本版ビッグバン」など32の話題と、「赤字国債」、「大店法」など50の基本用語が載っています。また、「社会」の分野では「神戸小学生殺傷事件と少年法」、「オウム真理教問題」、「文化」の分野では「たまごっちフィーバー」、「ポケモン」、「若者言葉」というように、社会問題となった事件や流行事情なども取りあげられています。

この本の特色は、各分野の時事用語や新語、流行語などの意味がわかるだけでなく、それらの用語やニュースの話題についての解説を通して、社会の最新の動きや変化を読みとることができることでしょう。

この本は、新しい用語や日本の最新事情を調べるために使えるほか、上級者向けの読み教材としても利用できるでしょう。

INDEX		1998		1999	
A-Z	10	10	10	10	10
ア	11	ア	11	ア	11
カ	12	カ	12	カ	12
キ	13	キ	13	キ	13
ク	14	ク	14	ク	14
ケ	15	ケ	15	ケ	15
コ	16	コ	16	コ	16
ク	17	ク	17	ク	17
ケ	18	ケ	18	ケ	18
コ	19	コ	19	コ	19
カ	20	カ	20	カ	20
キ	21	キ	21	キ	21
ク	22	ク	22	ク	22
ケ	23	ケ	23	ケ	23
コ	24	コ	24	コ	24
ク	25	ク	25	ク	25
ケ	26	ケ	26	ケ	26
コ	27	コ	27	コ	27
カ	28	カ	28	カ	28
キ	29	キ	29	キ	29
ク	30	ク	30	ク	30
ケ	31	ケ	31	ケ	31
コ	32	コ	32	コ	32
カ	33	カ	33	カ	33
キ	34	キ	34	キ	34
ク	35	ク	35	ク	35
ケ	36	ケ	36	ケ	36
コ	37	コ	37	コ	37
カ	38	カ	38	カ	38
キ	39	キ	39	キ	39
ク	40	ク	40	ク	40
ケ	41	ケ	41	ケ	41
コ	42	コ	42	コ	42
カ	43	カ	43	カ	43
キ	44	キ	44	キ	44
ク	45	ク	45	ク	45
ケ	46	ケ	46	ケ	46
コ	47	コ	47	コ	47
カ	48	カ	48	カ	48
キ	49	キ	49	キ	49
ク	50	ク	50	ク	50
ケ	51	ケ	51	ケ	51
コ	52	コ	52	コ	52
カ	53	カ	53	カ	53
キ	54	キ	54	キ	54
ク	55	ク	55	ク	55
ケ	56	ケ	56	ケ	56
コ	57	コ	57	コ	57
カ	58	カ	58	カ	58
キ	59	キ	59	キ	59
ク	60	ク	60	ク	60
ケ	61	ケ	61	ケ	61
コ	62	コ	62	コ	62
カ	63	カ	63	カ	63
キ	64	キ	64	キ	64
ク	65	ク	65	ク	65
ケ	66	ケ	66	ケ	66
コ	67	コ	67	コ	67
カ	68	カ	68	カ	68
キ	69	キ	69	キ	69
ク	70	ク	70	ク	70
ケ	71	ケ	71	ケ	71
コ	72	コ	72	コ	72
カ	73	カ	73	カ	73
キ	74	キ	74	キ	74
ク	75	ク	75	ク	75
ケ	76	ケ	76	ケ	76
コ	77	コ	77	コ	77
カ	78	カ	78	カ	78
キ	79	キ	79	キ	79
ク	80	ク	80	ク	80
ケ	81	ケ	81	ケ	81
コ	82	コ	82	コ	82
カ	83	カ	83	カ	83
キ	84	キ	84	キ	84
ク	85	ク	85	ク	85
ケ	86	ケ	86	ケ	86
コ	87	コ	87	コ	87
カ	88	カ	88	カ	88
キ	89	キ	89	キ	89
ク	90	ク	90	ク	90
ケ	91	ケ	91	ケ	91
コ	92	コ	92	コ	92
カ	93	カ	93	カ	93
キ	94	キ	94	キ	94
ク	95	ク	95	ク	95
ケ	96	ケ	96	ケ	96
コ	97	コ	97	コ	97
カ	98	カ	98	カ	98
キ	99	キ	99	キ	99
ク	100	ク	100	ク	100

国際交流基金開発教材紹介

『写真パネルバンク』全5シリーズ完成

国際交流基金日本語国際センター制作事業課の企画・制作による『写真パネルバンク』全5シリーズが1998年3月に完成し、日本出版貿易から刊行されました。

今回は、このたび新たに完成した「Ⅲ・自然と余暇シリーズ」と「Ⅴ・日常生活シリーズ」の構成と内容を中心に紹介いたします。

本教材が、世界各国の日本語教育の場において、広くご活用いただけることを期待しています。

日本語国際センター制作事業課

1 『写真パネルバンク』とは

『写真パネルバンク』は、海外の日本語学習者に対し、日本特有の事物や日本人の生活習慣や文化的行事等を視覚的に説明するために企画されたもので、日本語の語彙指導や日本事情紹介の効果を高めることに役立つ教材です。

なお、この『写真パネルバンク』の制作には、吉岡英幸、石沢弘子、金田一秀穂、西郡仁朗、阿部洋子、熊倉功夫、荒川洋平（Ⅰのみ）、加藤健司（Ⅳのみ）、澤井康子（Ⅴのみ）の各先生方に参加していただきました。

『写真パネルバンク』全5シリーズの内容

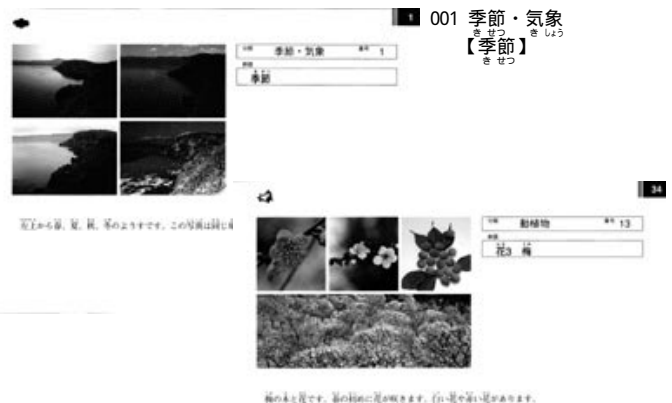
シリーズ名	テーマ (写真パネルの枚数)	刊行時期	価格 (税別)
I 衣食住と道具 シリーズ	「衣類」「飲食物」「住居」「道具」(107枚)	1995年3月	¥23,300
II 社会生活 シリーズ	「報道・通信」「医療・サービス」「交通」「行政」「経済活動」「いろいろな店」」「教育」(156枚)	1997年1月	¥27,184
III 自然と余暇 シリーズ	「季節・気象」「地形」「動植物」「教養・娯楽」「スポーツ」「観光地」(108枚)	1998年3月	¥23,334
IV 行事シリーズ	「年中行事と祭り」「冠婚葬祭」(125枚)	1996年3月	¥23,300
V 日常生活 シリーズ	「家族」「起床・睡眠」「食事」「美容・健康」「通学・通勤」「勉強」「仕事」「家事」「交際」「趣味・遊び」(147枚)	1998年2月	¥27,142



2 「Ⅲ・自然と余暇シリーズ」の特色

(1) 日本の風土について知ることができます

「季節・気象」「地形」「動植物」のテーマでは、日本の四季や山・川・海、温泉といった日本の地形、また動植物、草花などが紹介されています。



036 動植物
【木2】紅葉

(2) 日本人の余暇の過ごし方を知ることができます

「教養・娯楽」のテーマでは、茶道や華道のような伝統文化や能・歌舞伎のような伝統芸能と共に、公園で休日を通す親子やゲームセンターやカラオケで遊ぶ若者達、また、海外旅行に出かける人々などが紹介されています。日本人のさまざまな余暇の過ごし方がうかがえます。

(裏)



(表)

「スポーツ」のテーマでは、相撲、柔道のような伝統的なスポーツ、野球、サッカーのような日本の人気スポーツ、その他いろいろなスポーツが、それを楽しむ人々の姿と共に紹介されています。



(3)日本の観光地について知ることができます

「観光地」のテーマでは、奈良・京都のような代表的な観光地や大阪・札幌といった大都市、銀座・渋谷のような繁華街の様子が紹介されています。



3!V「日常生活シリーズ」の特色

(1)日常生活の動詞が多く取り上げられています



このシリーズは、サラリーマン、魚屋さん、教師、農家という職業も生活の場も異なる4つの家族を取り上げ、その日常生活を描いたものです。語彙の面からみると、他の4つのシリーズは名詞が中心でしたが、このシリーズでは人々の活動を表す動詞が多く使われています。

(2)日常生活のいろいろな場面を知ることができます

例えば、「食事」というテーマでは、茶の間でそろって朝食をとる一家、ダイニングキッチンで先に食べるお父さん、給食を食べる小学生、ハンバーガーショップでおしゃべりする高校生など、日本人のさまざまな食生活を紹介しています。



(3)いろいろな人の一日の生活を知ることができます

都心に住む高校生はどんな一日を過ごしているのでしょうか。サラリーマンの金子さん一家の長女朝子さん(17歳)の一日の生活をおっていけば想像できるでしょう。同様に、働くお父さん、主婦、仕事を持つお母さん、小・中学生、大学生、おじいさん・おばあさんなど、いろいろな人の生活が写真パネルから生き生きと伝わってきます。



4. 入手方法

値段は、表の通りです。
電話またはFAXで以下までお申し込み下さい。
日本出版貿易株式会社
〒101 0064 東京都千代田区猿樂町1 2 1
TEL81+3 3292 3757 FAX81+3 3292 0410

このコーナーでは、海外で日本語を教えるときに、教師が直面すると思われる問題を取りあげ、質問に答える形で、読者のみなさんの参考になる情報を提供していきます。

Q 会話のクラスでペアワークをしたいのですが、クラスの人数が多くて難しいです。こういう活動はしなければいけないのでしょうか。

A コミュニケーション能力を養成するためには、クラスでも実際のコミュニケーション活動（目的のある情報のやりとり）を行うことが必要です。そのためには、インタビューやロール・プレイなどの活動を行いますが、それは、これらの活動が、相手の発話を理解し、さらに質問したり行動したりといった目的のあるコミュニケーション活動になっているからです。これらの活動は、教師によって提示された文型を同じように繰り返すだけの練習とは大きくちがひ、相手の反応を確かめながらすすめていくものですから、基本的にはペアやグループで行うことが好ましいです。しかしながら、大人数クラスでは、クラスの混乱を避けながら活動をすすめていくための工夫が必要になります。

今回は、学習者同士の活動の中でペアワークを取り上げ、大人数クラスで行うための方法を考えてみたいと思います。

ペアワークのいろいろ

大人数クラスでの学習者同士の活動形態を簡単にまとめてみましょう。

一斉型ペアワーク

クラス全体を2人ずつにわけて、それぞれが一斉に会話をします。

長所：学習者一人一人の発話量が多くなり、短い時間にたくさん練習できます。

欠点：クラス全体がうるさくなります。学習者全体の発話を教師が観察することがむずかしいです。

教師コントロール型ペアワーク

クラス全体をAとBの2つのグループにわけます。Aグループの1人がBグループの1人と会話をします。

長所：一度に話すのは2人だけなので、教師が学習活動を管理しやすいです。

欠点：①に比べると、学習者一人一人の練習量が少なくなります。

学習者発表型ペアワーク

通常はスピーチなどの発表によく使われるものですが、1人の学習者（A）がクラスの他のメンバー（B）と会話をします。

長所・欠点：②と同じです。

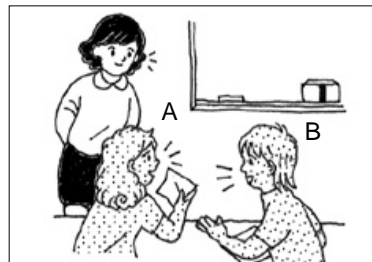
グループ内ペアワーク

①や③の活動をグループ別に行うものです。図では、AとBが話し、他のメンバーは聞いています。

長所：学習者一人一人の発話量が②③より多いです。

欠点：②③よりも学習活動を管理するのがむずかしいです。

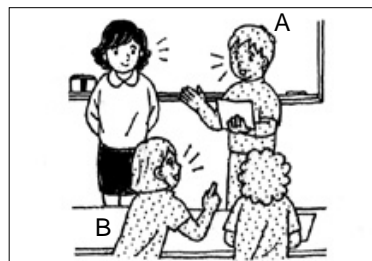
図①



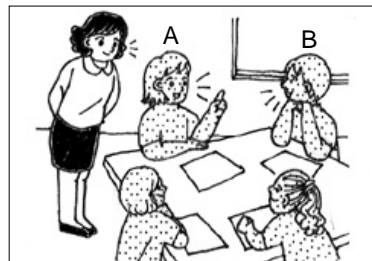
図②



図③



図④



大人数クラスでのペアワークの進め方

活動の流れを考える

大人数クラスで学習者同士の活動を行うには、図①～

④の活動形態を上手に組み合わせるとよいでしょう。すなわち②や③のような教師が学習を管理しやすい活動形態から、①のような学習者の自由度が高い活動形態へ段階をおって変えていくと、クラスの混乱が少なくなりま

- (1) 教師が活動の動機付けをします。活動に必要な語彙や表現を確認します。(教師がクラス全体に説明)
- (2) 教師が活動方法を説明したあとで、何人かの学習者にさせてみて、できるかどうか確認します。(図②③)
- (3) 学習者同士で自由に活動させます。(図①④)
- (4) 学習者に活動成果を発表させ、フィードバックを行います。(図②③)

学習者が(3)の活動が上手にできない場合は、(2)の段階に時間をかけ、(3)の活動を短くするとよいです。

クラス全体を活動にまきこむ工夫をする

図②③のような活動形態で学習者同士の活動をする場合は、会話に参加していない学習者を退屈させないことが大切です。簡単な方法としては、他の人の会話の内容について質問するなど、いっしょに考えさせ活動にまきこむようにしましょう。

学習者に責任を持たせる

ペアワークを行うには、学習者同士が協力し、教師に厳しく管理されなくても責任を持って自分の学習が進められるようになることが必要です。そのために、誤りの訂正等をできるだけ学習者同士で行わせるとよいでしょう。

初級のペアワークの活動例

インフォメーション・ギャップを利用して存在表現の口頭練習を行ってみましょう。

- (1) 黒板に部屋の見取り図(窓、テーブル、いす等がある)をかき、学習者の部屋であると仮定する。(図⑤-1)
- (2) 教師は学習者全体に「部屋にほかになにがありますか」と質問し、学習者は想像して自由に答える。

- (3) 教師は学習者の答えから5つのものを選んで「～はどこにありますか」と質問する。学習者は、想像して「～は……にあります」を使って答える。教師は答えをきいて、それを絵にかき加えていく。(活動の動機付け、語彙や表現の確認)
- (4) 黒板の絵の5つのものを消し、見取り図だけにする。学習者は同じ絵をノートにかき、それぞれの絵に5つのものを好きなどころにかき加える。
- (5) 学習者2人(A、B)が前に出る。Aが5つのものをどこにかいたか(Aの部屋の絵)をあてるために、クラス全員が交代でAに質問する。BはAの答えをきいて黒板の絵に5つのものをかき加える。他の学習者も黒板の絵を見ながらいっしょに考える。(図⑤-2 活動方法の確認)
- (6) (5)の活動をペアで行う。5つのものはペアで自由に決めてもよい。(学習者同士の自由な活動)
- (7) いくつかのペアが発表する。(活動成果の発表)

図⑤



活動形態の工夫：(6)の一斉型ペアワークがむずかしいときは

- ・(5)を他の学習者を指名して繰り返す。
- ・1クラスを4～5人のグループにわける。その中の1人の絵をあてるために、他の学習者が交代で質問する。

参考文献：リソース集

Cross, David. (1995) Large Classes in Action. Prentice Hall.

活動形態を少し変えてみるとクラスの雰囲気が変わるかもしれません。このコーナーへの質問やご意見をお待ちしています。

担当：藤長がおる(日本語国際センター専任講師) *32号から、担当者が変わりました。

NEWS NEWS NEWS ニュース

『写真パネルバンク』のユニークな使い方募集

教材『写真パネルバンク』については、本号20、21ページの特集や「写真で見る日本人の生活」で紹介してきました。そこでこのたび、『写真パネルバンク』のユニークな使い方を募集します。

この教材は授業などで使ったことのある方（あるいはこれから使ってみようと思う方）で、面白い使い方のアイデアのある方は、応募してみませんか。授業、課外活動や展示など、どんな使用方法でも結構です。また、ⅠからⅤのどのシリーズのパネルを用いてもかまいません。その活動の様子を写した写真もなるべく一緒に送ってください。選考の結果、ユニークで効果的な方法を『日本語教育通信』34号以降で紹介し、また、上位5名の方に賞品を差し上げます。たくさんの応募をお待ちしています。

1. 募集テーマ：『写真パネルバンク』のユニークな使い方
2. 応募方法：①活動のテーマ（目的）、②使用したパネルのシリーズ名と題名（例：日常生活シリーズ・洗濯する）、③使用方法、④優秀者に選ばれた場合、賞品として希望する『写真パネルバンク』のシリーズ名（詳細は本通信20ページの表を参照）、⑤可能ならば、そのパネルを使った授業

○ 編集部から ○

『日本語教育通信』は役に立ち、またおもしろいのですが、日本語が難しく読むのに苦労しています。

「英語で書かれた『通信』は発行されていないのですか」

「もっと日本語教育に関する情報がほしいのですが」

このような読者の皆さんからの感想や質問に基づいて、「海外日本語センターニューズレター紹介」を企画しました。

海外日本語センターが発行するニューズレターの中には、日本語ばかりでなく、英語やタイ語やポルトガル語で書かれたものもありますので、『通信』が難しい

*この欄にふさわしい情報やニュースがありましたら、下記までお寄せください。

国際交流基金日本語国際センター情報交流課
〒336 0002 埼玉県浦和市北浦和5 6 36

Research and Information Division, The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa, 6-36 Kita-Urawa 5-chome, Urawa-shi, Saitama 336-0002, Japan

- 風景や展示方法などを写した写真、
⑥あなたの氏名、連絡先を書いて、
下記の宛先までお送りください。
3. 賞品：希望するシリーズの『写真パネルバンク』1セット（5名）
 4. 締切：1998年12月31日
 5. 宛先：国際交流基金日本語国際センター 制作事業課 コンテスト係
〒336 0002
埼玉県浦和市北浦和5 6 36
TEL +81 48 834 1183
FAX +81 48 831 7846

日本語教育論集 「世界の日本語教育」第8号発刊



日本語国際センターが編集・発行している日本語教育論集「世界の日本語教育」の第8号が発刊されました。この論集は、世界各国で、行われている日本語教育や日本語研究分野の研究成果を紹介するために毎年発行しているものです。第8号では、各国から投稿された論72編の中から選ばれた15編が掲載されています。

なお、本論集は国内外の主要な日本語教育機関に寄贈されるほか、市販もしておりますのでどうぞ御利用ください。（定価2,200円）

と感じる方は、こうしたニューズレターを利用してみたいでしょうか。

また、『通信』とは異なる日本語教育に関する各種情報を載せていますので、『通信』と合わせて利用していただきたいと思います。

ニューズレターの中には、海外日本語センターのホームページ上で見ることが出来るものもありますので、こちらでもご利用ください。

*編集部では、『日本語教育通信』に対するご意見や皆さんの学校の状況などを書いたお手紙をお待ちしています。

市販についてのお問い合わせ先：

(株)凡人社
〒102 0093東京都千代田区平河町1 3 13
菱進平河町ビル 8階
TEL +81 3 3263 3959
FAX +81 3 3263 3116

海外派遣青年日本語教師募集

海外で高まっている日本語学習熱に因るために国際交流基金が実施している「青年日本語教師派遣事業」では、平成11年度に東南アジア（マレーシア）および大洋州（オーストラリア）を中心に若干名の派遣を予定しています。詳しい募集要項および応募書類をご希望の方は、住所・氏名を明記した返信用の封筒（角3型）に切手120円を貼付して、下記の（財）国際文化交流推進協会（エース・ジャパン）までご請求ください。募集の締め切りは平成10年10月21日（水）です。なお、電話でのお問い合わせには応じておりませんのでご注意ください。

問い合わせ先

〒107 0052 東京都港区赤坂2 17 22
赤坂ツインタワービル1階
（財）国際文化交流推進協会
（エース・ジャパン）JF-NG99係
（担当 田口）

URL

<http://www.acejapan.or.jp/ace/info/JapaneseTutor.html>
（こちらで募集要項をご覧になれます）
*情報交流課、日本語課では応募を受け付けておりませんのでご注意ください。

『日本語教育通信』第32号

1998年9月発行

発行・編集 国際交流基金
日本語国際センター 情報交流課
〒336 0002 埼玉県浦和市北浦和5 6 36
The Japan Foundation
Japanese-Language Institute, Urawa
(6-36 Kita-Urawa 5 chome, Urawa-shi,
Saitama 336-0002, Japan)
TEL 048 834 1184 FAX 048 830 1588
E-Mail jfnckt@jpf.go.jp
編集協力
財団法人 国際文化交流推進協会
Assoc. ACE Japan (Japan Association for
Cultural Exchange)
© 1998 by The Japan Foundation

（表紙イラスト：村井宗二）